

外国語科(英語)

外国語科はどのようなことに重点を置いて改訂されているか。

1 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことを総合的に行う学習活動を充実

- (1) 領域ごとに示す言語活動の指導事項をそれぞれ1項目追加または再編成し、各5項目とした。 ⇨ 「英語の言語活動」参照
- (2) 語、連語及び慣用表現の指導については、運用度の高いものを用い、活用することを通して定着を図るようにする。
- (3) 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導する。
- (4) 言語活動充実を通じて言語材料の定着を図るとともに、コミュニケーション能力の一層の育成のため、授業時数を各学年105時間から140時間に増加させた。

- 語彙・文法を活用し、まとまりのある文章を書く力、内容理解にとどめず発信する力を重視
- 4領域の総合的な(バランスのよい)指導を通して、4領域を関連付ける。
- 言語活動の充実
確実な習得を図るための繰り返し学習 ⇔ 知識・技能を活用する学習

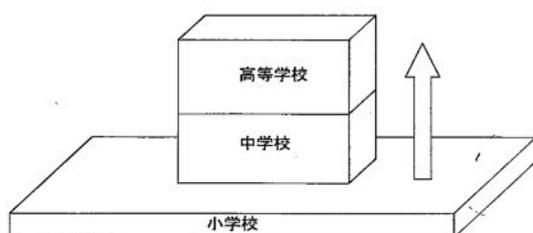
2 語彙・教材の充実

- (1) 語数を1200語程度に増加(現行は900語程度まで)
- (2) 教材は、外国語で発信しうる内容の充実を図る観点から、日常生活、物語に加え、我が国の伝統文化と自然科学を追加

- 学習指導要領の最低基準性が明確になり、「はどめ規定」がなくなった。
- 授業時数が各学年105時間から140時間に増加するものの、文法事項等の指導内容は概ね従来のままであり、言語活動の充実を図る条件が整備された。

3 小学校外国語活動を踏まえた改善

聞くこと、話すことについては、「慣れ親しむ」は英語の目標から削除



【中学校】

聞く、話す、読む、書くなどのコミュニケーション能力の基礎の育成



【小学校】

音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度や言語文化に対する体験的理解の深まり

コミュニケーション能力の素地の育成